

【プレゼンテーション資料】

## 2009年度第3四半期 連結業績のご説明

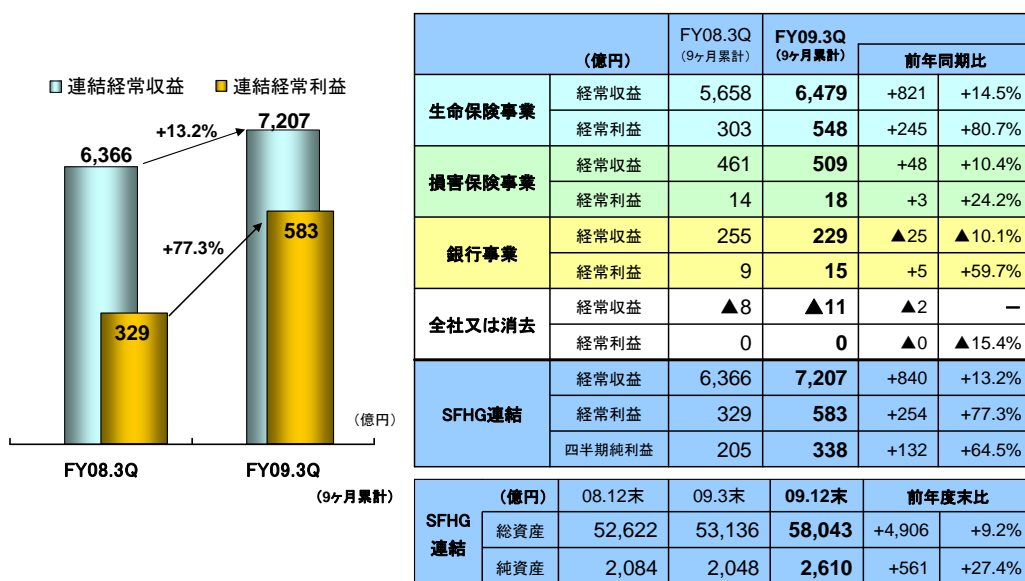
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社  
2010年2月12日

表紙

**免責事項:**

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

# 連結業績ハイライト



金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

2

ソニーフィナンシャルホールディングスグループの2009年4月から12月までの、9ヶ月間累計の連結経常収益は、銀行事業では減少したものの、生命保険、損害保険事業で増加した結果、前年同期比13.2%増加の7,207億円となりました。

連結経常利益は、全ての事業において増益となり、前年同期比77.3%増加の583億円となりました。

四半期純利益は、前年同期比64.5%増加の338億円となりました。

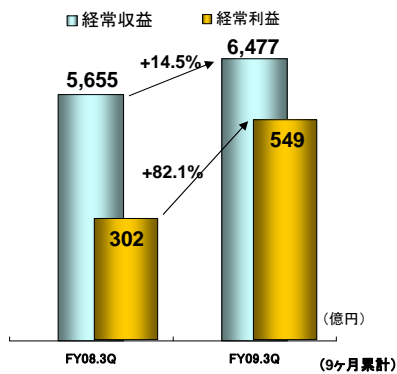
次のスライド3には各事業セグメント毎の業績の要旨をまとめておりますのでご覧ください。

続いてスライド4から、各事業を担う3社の業績について詳細をご説明します。

## 連結業績ハイライト

- 生命保険事業では、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、比較的良好な金融市場環境下において資産運用収益が増加したことにより、経常収益は増加。経常利益は、保険料等収入の増加、一般勘定資産の運用益の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻し入れに転じたことなどにより増加。なお、前年同期においては、危険準備金および価格変動準備金を取り崩したが今年度は繰り入れになった。
- 損害保険事業では、主力の自動車保険で保有契約件数が伸張したことによる正味収入保険料の増加により経常収益は増加。経常利益は、正味損害率が上昇するも、保険料収入の増加および正味事業費率の低下などにより増加。
- 銀行事業では、経常収益は世界的な金利低下の影響により減少したものの、資金調達費用の減少および住宅ローンの順調な増加等により資金運用収支が増加したことから、経常利益は増加。
- 連結経常収益は、前年同期比13.2%増加の7,207億円。連結経常利益は、前年同期比77.3%増加の583億円。四半期純利益は、前年同期比64.5%増加の338億円。

# ソニー生命 業績ハイライト(単体)



## 【ソニー生命】

- ◆前年同期比 増収増益
- ◆保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加
- ◆資産運用収益は増加
- ◆経常利益は、保険料等収入の増加、一般勘定資産の運用益の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻りに転じたことにより増加

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円) / (9ヶ月累計)	FY08.3Q	FY09.3Q	前年同期比	
経常収益	5,655	6,477	+821	+14.5%
保険料等収入	4,896	5,121	+225	+4.6%
資産運用収益	722	1,302	+579	+80.3%
うち利息及び配当金等収入	408	509	+101	+24.8%
うち金銭の信託運用益	39	132	+92	+234.3%
うち有価証券売却益	208	145	▲63	▲30.3%
うち特別勘定資産運用益	—	503	+503	—
経常費用	5,353	5,927	+573	+10.7%
保険金等支払金	1,983	2,047	+64	+3.3%
責任準備金等繰入額	1,539	2,900	+1,360	+88.4%
資産運用費用	1,041	163	▲878	▲84.3%
うち有価証券売却損	122	80	▲41	▲34.2%
うち有価証券評価損	173	—	▲173	▲100%
うち特別勘定資産運用損	666	—	▲666	▲100%
事業費	697	709	+12	+1.9%
経常利益	302	549	+247	+82.1%
四半期純利益	220	321	+100	+45.5%

(億円)	08.12末	09.3末	09.12末	前年度末比	
有価証券残高	24,374	28,196	32,941	+4,745	+16.8%
責任準備金残高	35,277	35,923	38,807	+2,884	+8.0%
純資産額	1,496	1,407	1,842	+435	+30.9%
その他有価証券評価差額金	246	40	223	+183	+457.3%
総資産額	37,587	38,109	41,434	+3,325	+8.7%
特別勘定資産	2,736	2,751	3,518	+766	+27.9%

4

まず、ソニー生命単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー生命の経常収益は、保有契約高の堅調な推移による保険料等収入の増加、および資産運用収益の増加により、前年同期に比べ**14.5%**増加し、**6,477**億円となりました。

保険料等収入は、保有契約高の増加にともない前年同期に比べ**4.6%**増加し**5,121**億円となりました。資産運用収益は、株価上昇による特別勘定資産運用益の増加、一般勘定においては超長期債の購入を推進してきたことによる利息及び配当金等収入の増加などにより、**80.3%**増加し、**1,302**億円となりました。

また、特別勘定の運用が良好であったことによる責任準備金繰入額の増加などによって、経常費用は前年同期に比べ**10.7%**増加し、**5,927**億円となりました。なお、前年同期は危険準備金を一部取り崩しましたが、当期は繰り入れに転じております。資産運用費用は、前年同期の特別勘定資産運用損が、今期は運用益に転じたことにより**84.3%**減少し、**163**億円となりました。

経常利益は、保険料等収入の増加、一般勘定資産の運用益の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻し入れに転じたことなどにより、**82.1%**増加し、**549**億円となりました。

なお、前年同期において価格変動準備金を一部取り崩し、特別利益を計上しましたが、当期は繰り入れになったことなどから、**44**億円の特別損失を計上しております。

以上の結果、四半期純利益は、前年同期に比べ**45.5%**増加し、**321**億円となりました。

# ソニー生命 主要業績指標(単体)



(単位:億円)	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	増減率
新契約高	29,936	30,204	+0.9%
解約・失効高	15,579	17,254	+10.7%
解約・失効率	4.95%	5.31%	+0.36pt
保有契約高	324,066	332,494	+2.6%
新契約年換算保険料	477	506	+6.1%
うち第三分野	103	122	+18.4%
保有契約年換算保険料	5,461	5,662	+3.7%
うち第三分野	1,260	1,315	+4.4%

## <主な増減要因>

◆ 2009年11月発売の「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の販売が好調。一部お客様において、より合理的な保険商品への買い替えが進んだ影響等があったものと分析。

◆ 2009年4月発売の、がん入院保険の販売好調の効果などにより第三分野が大幅に増加。

(単位:億円)	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	増減率
資産運用損益(一般勘定)	347	634	+82.6%
基礎利益	226	451	+99.4%
逆ざや額	163	122	▲25.2%

◆ 利息及び配当金等収入の増加、有価証券売却益の増加などにより、増加。

◆ 保険料等収入の増加、利息及び配当金等収入の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻し入れに転じたことなどにより増加。

※新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

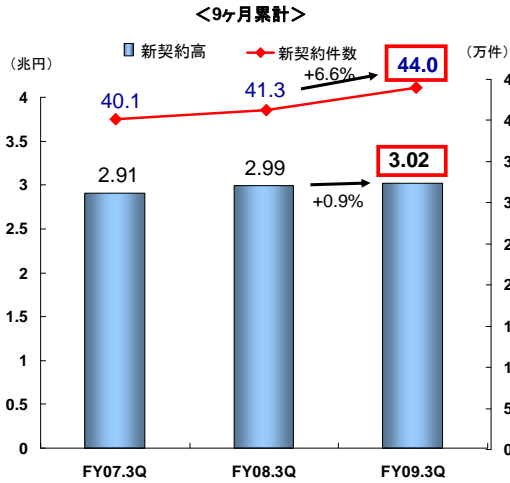
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の主要業績指標につきましては、スライドに記載の通りです。

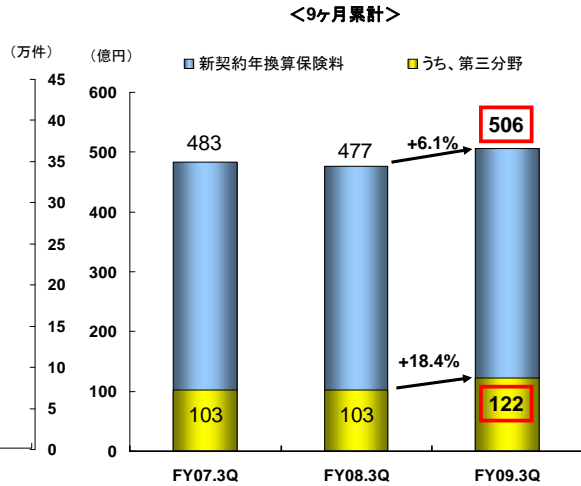
# ソニー生命の業績(1)



## 新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)



## 新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



新契約高は百億円未満切捨て、新契約年換算保険料は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

6

### (左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険、個人年金保険を合計した新契約高は、前年同期に比べ**0.9%**増加し、**3兆2百億円**となりました。第2四半期累計時点では前年を下回っておりましたが、昨年11月に発売した、健康状態が所定の基準を満たすお客さまについて、より割安な保険料でご加入いただける「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の新商品効果により、新契約獲得は回復基調にあります。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期に比べ**6.6%**増加し、**44万件**となりました。

### (右側のグラフ)

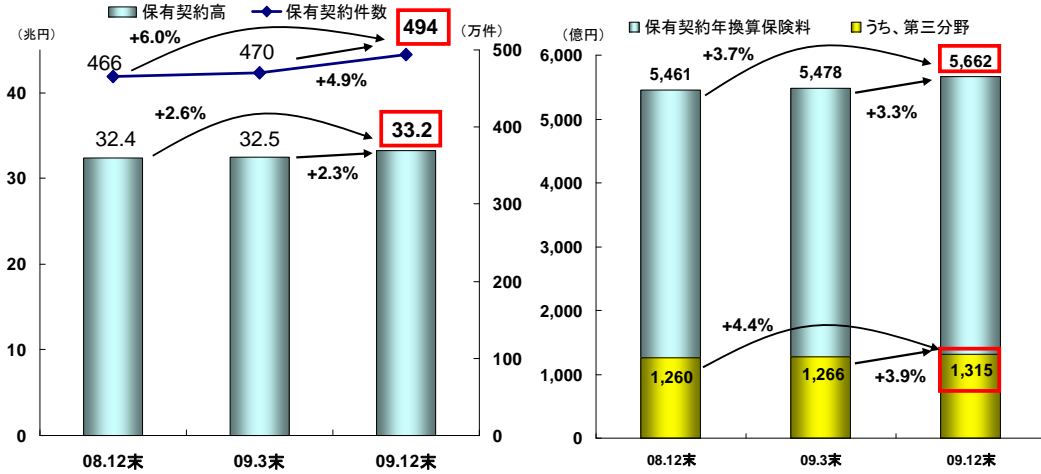
新契約年換算保険料は前年同期に比べ**6.1%**増加し、**506億円**となりました。

うち、第三分野は、**2009年4月**に発売した「がん入院保険」の販売が好調であったことなどにより、前年同期に比べ**18.4%**増加し、**122億円**となりました。

# ソニー生命の業績(2)

保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

## (左側のグラフ)

棒グラフで示しております個人保険、個人年金保険を合計した保有契約高は、堅調に推移し、前年同期末に比べ**2.6%**増加、**2009年3月末比**では**2.3%**増加し、**33兆2千億円**となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は前年同期末に比べ**6.0%**増加、**2009年3月末比**では**4.9%**増加し、**494万件**となりました。

## (右側のグラフ)

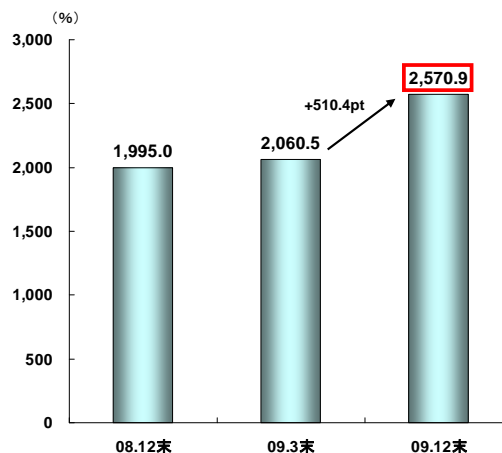
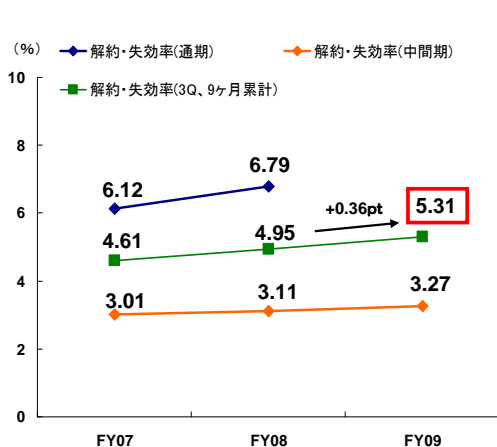
保有契約年換算保険料は、前年同期末に比べ**3.7%**増加、**2009年3月末比**では**3.3%**増加し、**5,662億円**となりました。このうち第三分野は前年同期末に比べ**4.4%**増加、**2009年3月末比**では**3.9%**増加し、**1,315億円**となりました。



# ソニー生命の業績(3)

解約・失効率\* (個人保険+個人年金保険)  
 <通期・中間期・第3四半期(9ヶ月累計)>

ソルベンシー・マージン比率



\*解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに出した数値です。

(左側のグラフ)

2009年度第3四半期9ヶ月累計の解約・失効率は、緑色の折れ線グラフが示すとおり、前年同期に比べ0.36ポイント上昇し、5.31%となりました。

解約・失効率の上昇のおもな要因は、昨年11月の「家族収入保険」の優良体・非喫煙者特則の新商品発売を機に、一部お客様において、より合理的な保険商品への買い替えがすすんだ影響等があったものと分析しております。

(右側のグラフ)

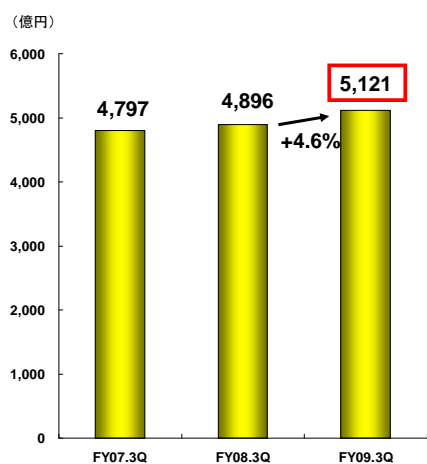
生命保険会社の健全性を示す指標のひとつであります、ソルベンシー・マージン比率は、その他有価証券の評価差額が増加したことなどにより、2009年3月末に比べて、510.4ポイント上昇し、2,570.9%となりました。

ソニー生命は引き続き財務基盤の健全性の維持に努めてまいります。

# ソニー生命の業績(4)

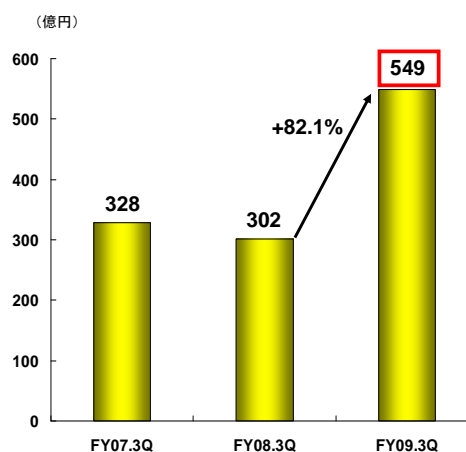
## 保険料等収入

<9ヶ月累計>



## 経常利益

<9ヶ月累計>



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

9

(左側のグラフ)

保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、前年同期に比べ4.6%増加し、5,121億円となりました。

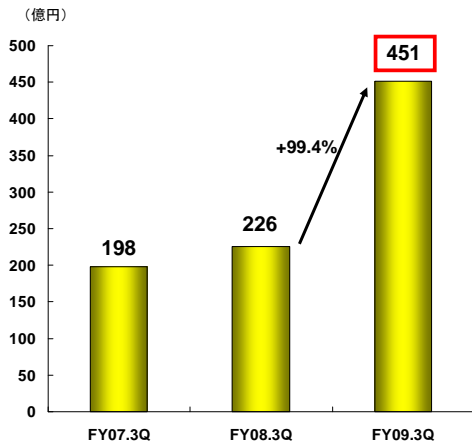
(右側のグラフ)

また、ソニー生命の経常利益は、スライド4でご説明のとおり、前年同期に比べ82.1%増加し、549億円となりました。

## ソニー生命の業績(5)

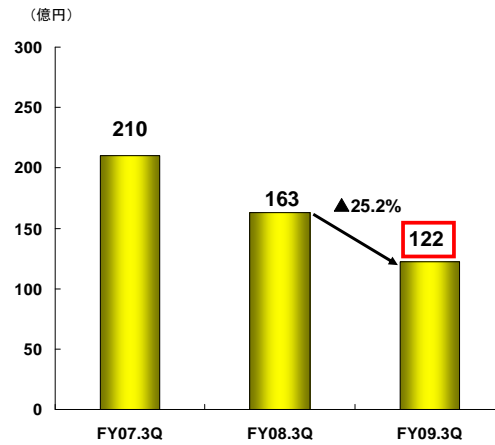
### 基礎利益

<9ヶ月累計>



### 逆ざや額

<9ヶ月累計>



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

10

### (左側のグラフ)

基礎利益は、保険料等収入の増加、利息及び配当金等収入の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻し入れに転じたことなどによって、前年同期に比べ**99.4%**増加し、**451**億円となりました。

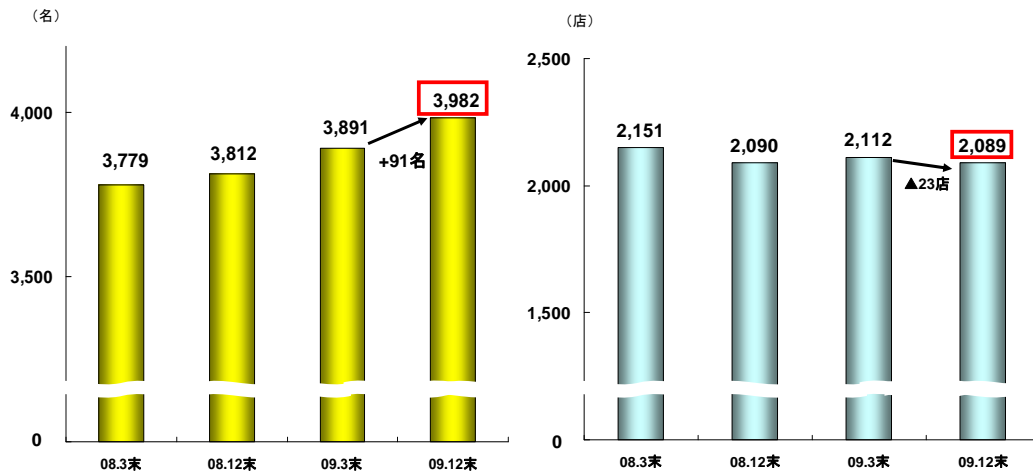
### (右側のグラフ)

逆ざや額につきましては、利息及び配当金等収入の増加に伴い、前年同期に比べ**25.2%**減少し、**122**億円となりました。

## ソニー生命の業績(6)

ライフプランナー在籍数

代理店数



(左側のグラフ)

2009年12月末時点でのライフプランナー在籍数は、2009年3月末より91名増加し、3,982名となりました。

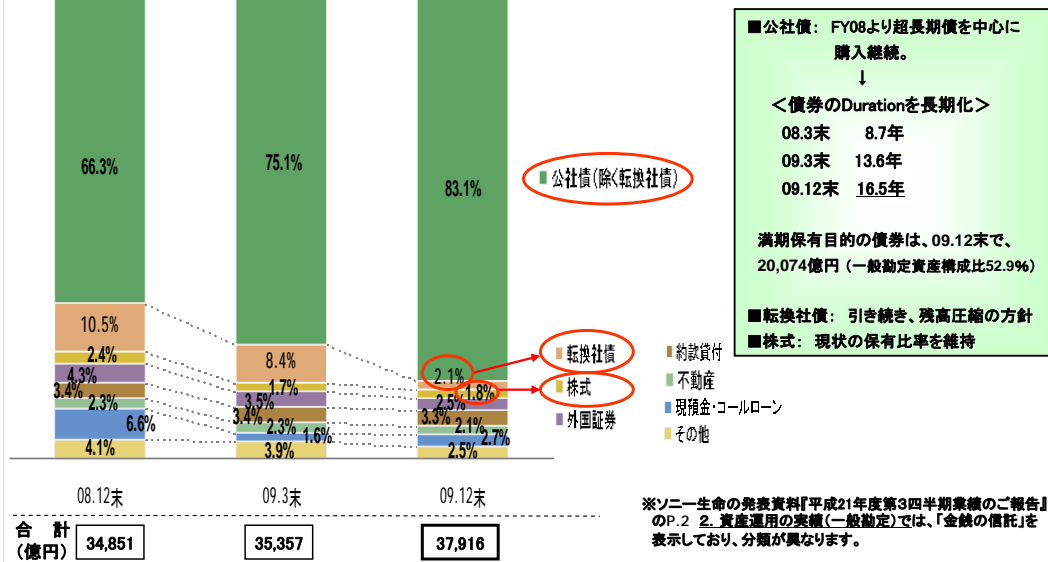
(右側のグラフ)

代理店数は、2009年3月末より23店減少し、2,089店となりました。

# ソニー生命の業績(7)

## 一般勘定資産の内訳【実質ベース】

■ 金銭の信託で運用されている有価証券(公社債、転換社債、株式等)の残高を、各運用資産分類に合算して表示



前年同期末および前年度末と対比した当第3四半期末の、一般勘定の資産構成比はご覧のとおりです。

前回発表から、「金銭の信託」として運用されている運用資産についても、有価証券種別に合算した、実質ベースでの一般勘定資産の内訳を表示しております。

2008年度より超長期債への投資を推進しており、国内公社債を中心としたポートフォリオとなっております。2009年12月末の一般勘定資産総額に占める公社債の割合は、転換社債を除いたベースで83.1%です。

債券のデュレーションの長期化を進めた結果、2009年12月末のデュレーションは16.5年となっております。

2009年度第4四半期においても、引き続き超長期債への投資を中心に推進してまいります。

## ソニー生命の業績(8)

### 時価のある其他有価証券の差損益

(億円)

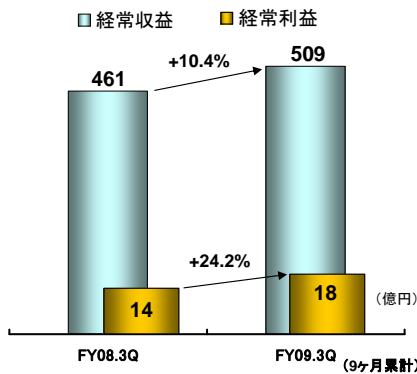
	08.12末	09.3末	09.12末	前年度末比
公社債	588	269	452	+182
うち転換社債	▲226	▲212	9	+221
株式	33	14	65	+51
外国証券	▲61	▲36	▲7	+29
其他証券	▲0	▲5	12	+17
合計	560	242	523	+281

金額は億円未満切捨て

※金銭の信託に含まれているものも含む。売買目的有価証券および満期保有目的債券の含み損79億円は含まず。  
 ※2009年12月末時点で、ソニー生命が保有する転換社債の加重平均価格は**98.0円**、平均残存期間は**2.2年**(プット条項を行使した場合の平均残存期間は**1.7年**)

時価のある其他有価証券の差損益の状況はご覧のとおりです。

# ソニー損保 業績ハイライト



## 【ソニー損保】

- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 経常収益は前年同期比10.4%増の509億円。正味収入保険料は、主力の自動車保険で保有契約件数が伸張したことにより、前年同期比10.6%増の503億円。
- ◆ 経常利益は前年同期比24.2%増の18億円。上記増収と事業費率の低下などによる。

(億円)	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	前年同期比	
			増減	増減率
経常収益	461	509	+48	+10.4%
保険引受収益	456	504	+48	+10.5%
資産運用収益	5	5	+0	+1.5%
経常費用	446	491	+44	+10.0%
保険引受費用	335	371	+36	+11.0%
資産運用費用	1	0	▲1	▲88.7%
営業費及び一般管理費	110	119	+8	+8.0%
経常利益	14	18	+3	+24.2%
四半期純利益(▲は純損失)	▲19	11	+31	-

(億円)	08.12末	09.3末	09.12末	前年度末比	
責任準備金残高	490	507	570	+62	+12.4%
純資産額	133	136	150	+13	+10.1%
その他有価証券評価差額金	▲1	▲1	0	+1	-
総資産額	822	866	947	+80	+9.3%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

14

ソニー損保の経常収益は、前年同期に比べ**10.4%増加の509億円**となりました。これは主力の自動車保険において保有契約件数が増加し、正味収入保険料が増加したことによるものです。

経常利益は、正味損害率が上昇したものの、保険料収入の増加および正味事業費率の低下等により、**24.2%増加の18億円**となりました。

四半期純利益は、前年同期の**19億円の純損失**に対し、当期は**11億円の純利益**となりました。これは主に、前年同期に計上されていた固定資産処分損、**38億円の影響がなくなったこと**によるものです。

# ソニー損保 主要業績指標



(単位: 億円)

	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	増減率
元受正味保険料	453	501	+10.5%
正味収入保険料	455	503	+10.6%
正味支払保険金	220	253	+15.0%
保険引受利益	10	13	+ 26.1%
正味損害率	54.4%	56.3%	+1.9pt
正味事業費率	25.9%	25.5%	▲0.4pt
コンバインド・レシオ	80.3%	81.8%	+1.5pt

※正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料  
 ※正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

	08.12末	09.3末	09.12末	前年度末比	
				増減数	増減率
保有契約件数	112万件	115万件	125万件	+10万件	+8.4%
ソルベンシー・マージン比率	-	993.0%	1,031.7%	-	+38.7 pt

※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める

金額は億円未満切捨て、件数は1万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の主要業績指標につきましては、スライドに記載の通りでございます。

次の16ページ目のスライドには、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しておりますのでご覧下さい。

続いて、17ページ以降のスライドで詳細をご説明します。



# ソニー損保 種目別保険引受の状況



## 元受正味保険料

	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	増減率
火災	265	215	▲18.9%
海上	-	-	-
傷害	4,959	5,187	+4.6%
自動車	40,152	44,731	+11.4%
自賠責	-	-	-
合計	45,377	50,133	+10.5%

## 正味収入保険料

(単位:百万円)

	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	増減率
火災	13	9	▲24.7%
海上	32	▲2	▲106.6%
傷害	5,159	5,360	+3.9%
自動車	39,997	44,557	+11.4%
自賠責	378	468	+23.7%
合計	45,580	50,393	+10.6%

## 正味支払保険金

	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	増減率
火災	0	0	+3.5%
海上	11	2	▲79.7%
傷害	1,001	1,106	+10.5%
自動車	20,715	23,891	+15.3%
自賠責	363	399	+9.9%
合計	22,092	25,399	+15.0%

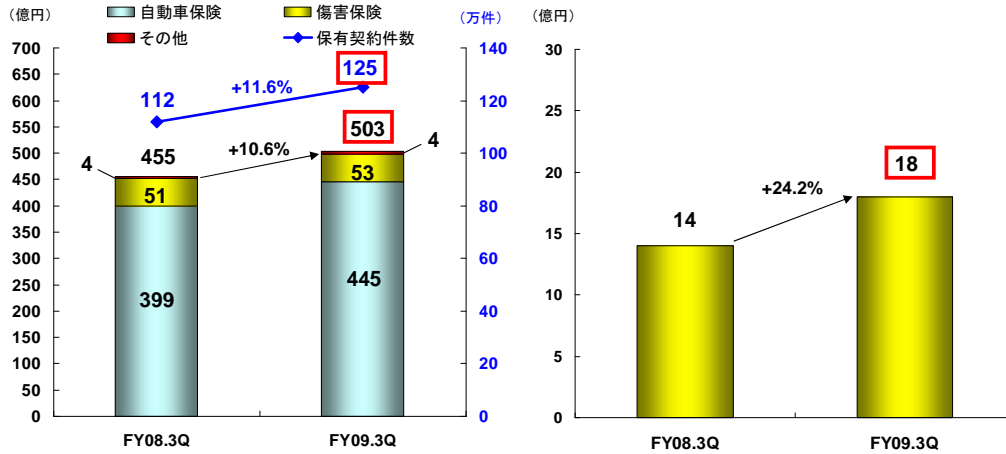
金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

# ソニー損保の業績(1)

## 正味収入保険料と保有契約件数

## 経常利益

<9ヶ月累計>



保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

金額は億円、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

### (左側のグラフ)

保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険である傷害保険との合計で前年同期に比べ、**11.6%**増加し**125**万件となりました。

正味収入保険料は前年同期に比べ、**10.6%**増加し**503**億円となりました。

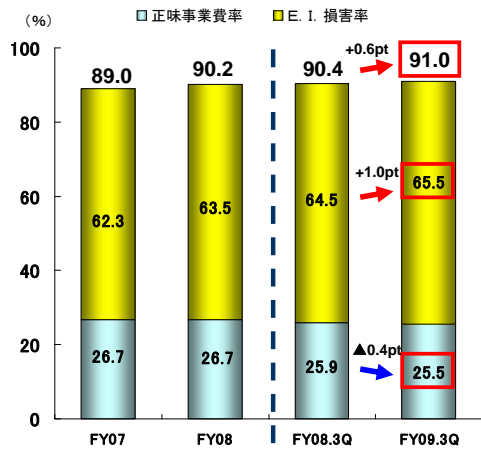
### (右側のグラフ)

経常利益は、経常収益の増加と事業費率の低下などにより、**24.2%**増加し、**18**億円となりました。

## ソニー損保の業績(2)

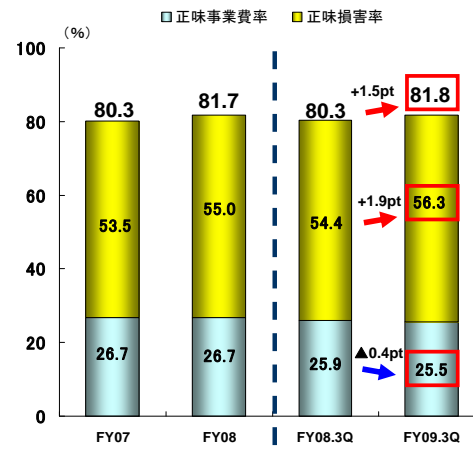
### <参考>

#### 正味事業費率+E.I.損害率



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料  
E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)÷既経過保険料  
※除く地震保険、自賠責保険

#### コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料  
正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

#### (左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、損害率を発生ベースでみた、スライドでE.I.損害率と記載しておりますアード・インカード損害率についてご説明します。

第3四半期累計のアード・インカード損害率は、事故発生率の上昇などにより保険金支払いが増加し、前年同期に比べ1.0ポイント上昇の65.5%となりました。

また、正味事業費率は、正味収入保険料の増加と経費コントロールにより、前年同期に比べ0.4ポイント低下の25.5%となりました。

#### (右側のグラフ)

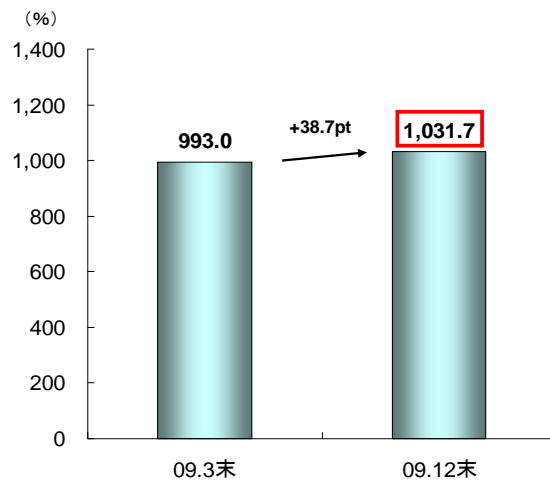
正味損害率は、前年同期に比べ1.9ポイント上昇の56.3%となりました。

これは保険金支払いが増加したことなどによるもので、支払備金繰入額などを反映していない点でアード・インカード損害率とは計算方法が異なります。

正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ1.5ポイント上昇の81.8%となりました。

## ソニー損保の業績(3)

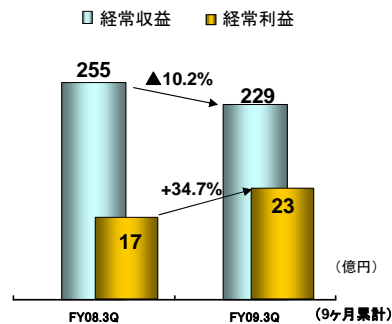
### ソルベンシー・マージン比率



※保険業法施行規則および大蔵省告示の規定に基づいて算出しており、09.12末については、計算の一部を簡便化して算出しています。

当年度第3四半期末のソルベンシー・マージン比率は前年度末に比べ、  
38.7ポイント上昇の1,031.7%となり、引き続き健全な水準を維持しています。

# ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



(億円)	FY08.3Q (9ヶ月累計)	FY09.3Q (9ヶ月累計)	前年同期比	
経常収益	255	229	▲25	▲10.2%
業務粗利益	94	110	+16	+17.2%
資金運用収支	38	99	+60	+156.5%
役員取引等収支	2	0	▲2	▲96.6%
その他業務収支	52	11	▲41	▲78.8%
営業経費	76	85	+9	+12.1%
経常利益	17	23	+5	+34.7%
四半期純利益	10	13	+3	+29.8%
業務純益	17	24	+6	+38.8%

## 【ソニー銀行】

- ◆前年同期比 減収増益
- ◆業務粗利益は、資金運用収支の増加により、前年同期比16億円増加
  - ・資金運用収支: 預金金利の低下による支払い預金利息の減少、および貸出金利の増加等により60億円増加
  - ・その他業務収支: 主にヘッジ目的で保有している金融派生商品評価損益の悪化等により41億円減少
- ◆四半期純利益は、前年同期比3億円増加
- ◆預かり資産残高は前年度末比1,401億円増加

(億円)	08.12末	09.3末	09.12末	前年度末比	
有価証券残高	7,985	8,231	7,832	▲399	▲4.9%
貸出金残高	4,316	4,770	5,626	+855	+17.9%
預金残高	13,392	13,263	14,427	+1,164	+8.8%
預かり資産残高	14,179	14,036	15,438	+1,401	+10.0%
純資産額	406	462	577	+114	+24.8%
その他有価証券評価差額金	▲152	▲96	1	+98	-
総資産額	14,163	14,119	15,622	+1,502	+10.6%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

20

ソニー銀行単体の経常収益は、世界的な金利低下の影響等により、前年同期と比べ**10.2%**減少し、**229億円**となりました。

業務粗利益は、前年同期と比べて**17.2%**増加し、**110億円**となりました。

主な要因は、ヘッジ目的で保有している金融派生商品の評価損益が悪化したことなどによりその他業務収支が減少したものの、預金金利の低下による支払い預金利息の減少、および住宅ローン残高の増加による貸出金利息の増加などにより資金運用収支が増加したことです。

また、営業経費については、システム関連費用等の増加により前年同期に比べて**12.1%**増加し、**85億円**となりました。

以上の結果、経常利益は、前年同期と比べて**34.7%**増加し、**23億円**となりました。

四半期純利益は、経常利益が増加したことにより**29.8%**増加し、**13億円**となりました。

# ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(億円)

	08.12末	09.3末	09.12末	前年度末比	
				増減額・数	増減率
預かり資産残高	14,179	14,036	15,438	+1,401	+10.0%
預金	13,392	13,263	14,427	+1,164	+8.8%
円預金	10,703	10,442	11,221	+779	+7.5%
外貨預金	2,688	2,821	3,206	+385	+13.7%
投資信託	787	772	1,010	+237	+30.7%
貸出金残高	4,316	4,770	5,626	+855	+17.9%
住宅ローン	4,230	4,683	5,444	+760	+16.2%
その他	85	87	182 (*1)	+94	+108.2%
口座数	70.1万件	72.3万件	76.9万件	+4.5万件	+6.3%
自己資本比率(国内基準) (*2)	14.38%	13.37%	13.04%	▲0.33 pt	

(\*1) うち100億円は法人向け

(\*2) P.25 自己資本比率(国内基準)の推移参照

金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

21

ソニー銀行の主要業績指標につきましては、このスライドのとおりでございます。

# ソニー銀行 主要業績指標(単体)②



## ■<ご参考>社内管理ベース

(億円)

<9ヶ月累計>	FY08.3Q	FY09.3Q	前年同期比	
業務粗利益	94	110	+16	+17.2%
資金収支*1 ①	89	100	+11	+13.1%
手数料等収支*2 ②	14	9	▲5	▲37.9%
その他収支*3	▲9	0	+10	—
コアベース業務粗利益(A) = ①+②	104	110	+6	+5.8%
営業経費等 ③	76	86	+9	+12.2%
コアベース業務純益 = (A)−③	27	24	▲3	▲11.9%

### ●社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

\*1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

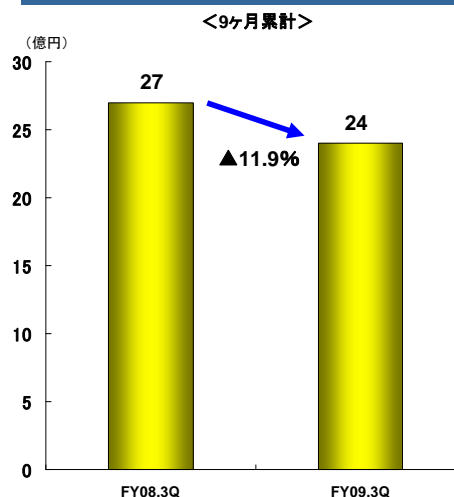
\*2 手数料等収支…役員取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益

\*3 その他収支…その他業務収支より\*1と\*2の調整を控除したものの主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

### ●コアベース

社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

## <ご参考>コアベース業務純益



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

22

このスライドでは、本業の収益力をより適切にご理解いただけるよう、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明します。

(左側のテーブル)

資金収支は、預金金利の低下による支払い利息の減少、および住宅ローン増加による貸出金受取利息の増加により、前年同期に比べて**11億円増加し、100億円**となりました。

手数料等収支は、主にお客さまとの外貨売買取引にかかる収益を調整したものです。こちらは、証券関連手数料収入の減少などにより、前年同期に比べて**5億円減少し、9億円**となりました。

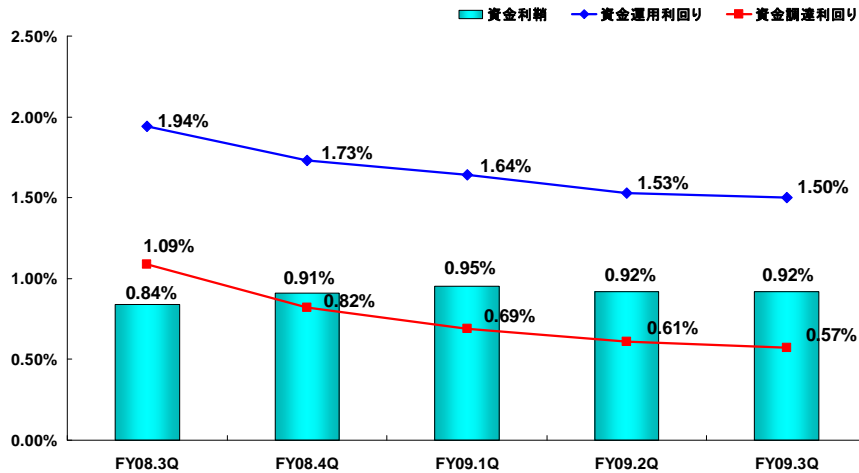
その結果、資金収支および手数料等収支からなる、銀行の本源的な収益動向を表すコアベースの業務粗利益は、前年同期に比べて**6億円増加し、110億円**となりました。

(右側のグラフ)

資金収支は増加したものの、手数料等収支の悪化や営業経費等の増加により、コアベースでの業務純益は前年同期に比べて**3億円減少し、24億円**となりました。

# ソニー銀行の業績(1)

## <ご参考> 資金利鞘の推移(社内管理ベース)



資金利鞘=資金運用利回り - 資金調達利回り  
資金運用利回りには、その他業務収支に計上されている為替スワップ損益等が含まれております。

社内管理ベースの資金利鞘についてご説明します。

世界的な金利低下を受けて、赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは継続的に下落しております。

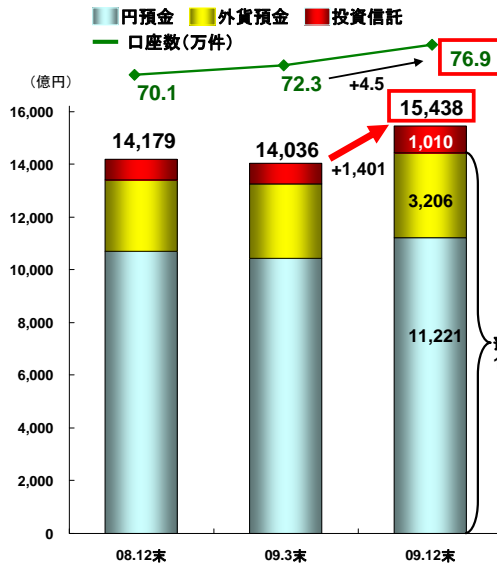
一方、住宅ローン残高の好調な伸びなどにより、青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りの低下は相対的に緩やかなものに留まっています。

結果として、棒グラフで表示しております資金利鞘は0.9%台で安定して推移しております。

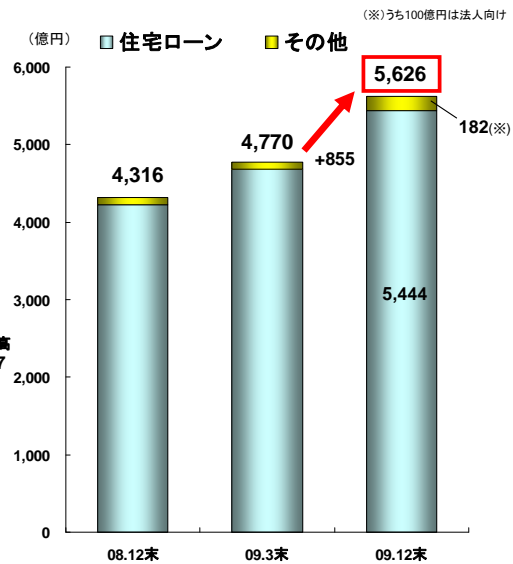


## ソニー銀行の業績(2)

### 預かり資産残高(預金+投資信託)および口座数



### 貸出金残高



金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て

業容の推移についてご説明します。

(左側のグラフ)

当第3四半期末の預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、

2009年3月末と比べて1,401億円増加し、1兆5,438億円となりました。

円預金と外貨預金を合計した預金残高は、昨年12月に開始したボーナスシーズンにおいて設定した特別金利の効果で円預金が伸びたことから、2009年3月末と比べて1,164億円増加し、1兆4,427億円となりました。

投資信託は、2009年3月末と比べて237億円増加し、1,010億円となりました。

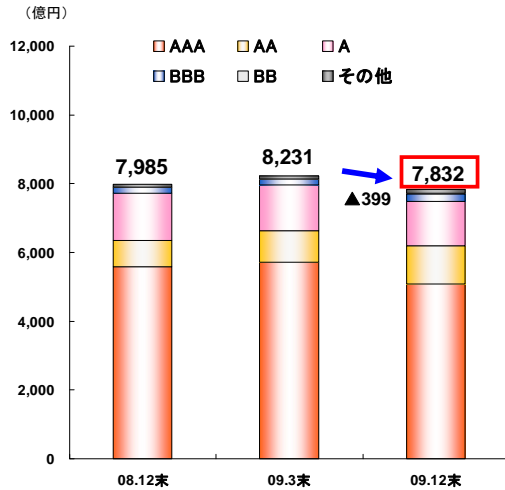
また、口座数は4万5千件増加して、76万9千件となりました。

(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローン残高の順調な伸びにより、2009年3月末と比べて855億円増加し、5,626億円となりました。

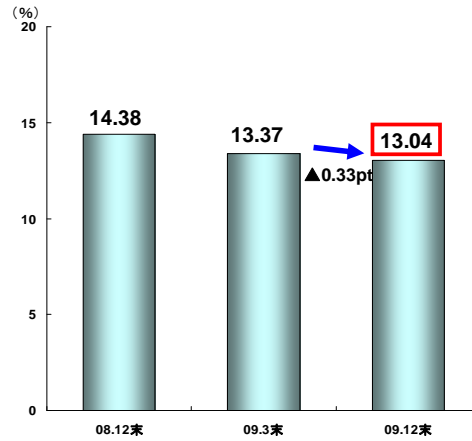
# ソニー銀行の業績(3)

格付別の有価証券残高の推移



金額は億円未満切捨て

自己資本比率(国内基準)の推移



※2008年度に、ソニーフィナンシャルホールディングスを引き受け先とする120億円の増資を実施しております。

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出しています。なお、平成21年3月期第3四半期会計期間より「銀行法第14条の2の規定」に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)を適用しております。

(左側のグラフ)

2009年12月末の有価証券残高は、2009年3月末と比べ399億円減少し、7,832億円となりました。

引き続き、高格付けの債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、2009年3月末と比べ0.33ポイント減少して、13.04%となりましたが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

# FY09連結業績予想

(億円 / 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示)

	FY09 (前回予想)	FY09(修正) (今回予想)	FY08 (参考)	増減率 FY08 vs FY09(今回予想)
<b>連結経常収益</b>	9,440	9,620	8,603	+ 11.8%
うち生命保険事業	8,520	8,647	7,662	+12.8%
うち損害保険事業	663	678	618	+ 9.6%
うち銀行事業	261	297	333	▲11.0%
<b>連結経常利益</b>	640	810	342	+136.5%
うち生命保険事業	611	773	325	+ 137.5%
うち損害保険事業	20 (変更なし)	20	21	▲8.2%
うち銀行事業	13	21	▲5	-
<b>連結当期純利益</b>	360	450	307	+46.5%

## ■生命保険事業

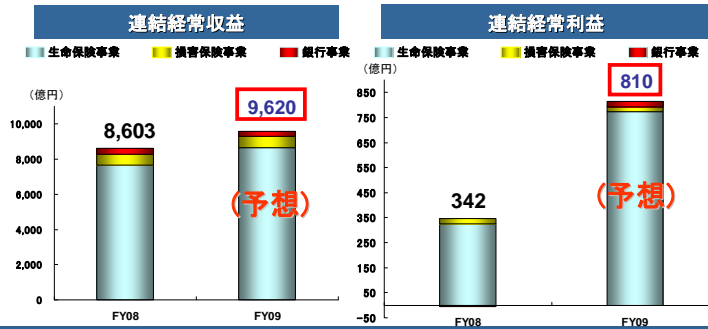
第3四半期の業績が前回予想を上回って推移したことに加え、超長期債の購入を推進していく中で、第4四半期も資産運用収益の増加が見込まれるため、業績予想を上方修正。

## ■損害保険事業

第4四半期も自動車保険を中心とした業容拡大が見込まれるため、経常収益を上方修正。ただし、損害率に上昇傾向が見られることから、経常利益は前回予想を据え置く。

## ■銀行事業

第4四半期において、市場運用にかかる収益の増加が見込まれるため、業績予想を上方修正。



26

最後に、ソニーフィナンシャルホールディングスの2009年度の連結業績予想について、ご説明します。

当第3四半期において、おもに生命保険事業が前回発表の計画を上回って推移したことなどから、2月4日に連結業績予想を上方修正しました。

事業別では、生命保険事業においては、第3四半期の業績が前回予想を上回ったこと、および超長期債の購入を推進していく中で、第4四半期も資産運用収益の増加が見込まれることから、業績予想を上方修正しました。

損害保険事業においては、第4四半期も自動車保険を中心とした業容拡大が見込まれるため、経常収益を上方修正しました。ただし、経常利益は損害率に上昇傾向が見られることから据え置きました。

また、銀行事業においては、市場運用にかかる収益の増加が見込まれるため、経常収益・経常利益ともに上方修正しました。

以上で、ご説明を終了いたします。

ありがとうございました。

## 補足資料

補足資料

## その他トピックス(1)

### ソニーライフ・エイゴン生命が営業開始

営業開始: 2009年12月1日

資本金: 200億円 (資本準備金100億円を含む)

株主: ソニー生命保険 50%

エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

取扱商品: 「ウイニングロード (変額個人年金保険 受取総額保証型)」および「ヴィクトリーラン (変額個人年金保険 年金原資保証型)」

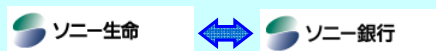
販売状況: 2009年12月1ヶ月間の販売実績... 件数: 107件 / 新契約保険料: 8億1,061万円



### ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取り扱い状況

■住宅ローン新規融資実行金額の35%

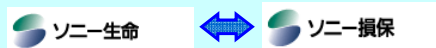
※銀行代理業務取り扱い開始: 2008年1月



### ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取り扱い状況

■新規自動車保険契約件数の約6%

※自動車保険取り扱い開始: 2001年5月



## その他トピックス(1)

## その他トピックス(2)

### <2009年度第3四半期以降の主な取り組み>

- 2009年10月 ソニー銀行、シンジケート・ローン業務に参入
- 2009年10月 1日 ソニー損保、契約手続に関する電子メールの問合せ(平日9:00~17:00受信分)への3時間以内の返信をお約束するサービスを開始
- 2009年10月13日 ソニー損保、「じぶん銀行」の携帯電話ウェブサイトを通じて自動車保険の商品確認と資料請求を可能にするサービスを開始
- 2009年11月 2日 ソニー生命、「優良体・非喫煙者割引特則」の販売を開始
- 2009年12月 1日 ソニーライフ・エイゴン生命、ソニー生命のライフプランナーによる販売を開始
- 2009年12月 7日 ソニー銀行、株式会社エフアンドエムが銀行代理による住宅ローンの取り扱いを開始
- 2009年12月 8日 ソニーライフ・エイゴン生命、東京スター銀行を代理店とする変額保険の販売を開始
- 2009年12月14日 ソニーバンク証券、「CFD取引」サービスを開始
- 2010年 1月21日 ソニー生命、エイゴン・インターナショナル B.V.との合併で再保険会社を設立し、免許登録を完了
- 2010年 2月 1日 ソニー損保、保険開始日が2010年2月1日以降の契約を対象に自動車保険の一部改定(特約新設・保険法改正に伴う約款改定と取扱い変更)を実施

## その他トピックス(2)



**お問い合わせ先:**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部

TEL:03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部

TEL:03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報部

TEL:03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 経営企画部 広報担当

TEL:03-6832-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、一般および報道関係からの  
お問合せで、個別各社の事業に関することは各社広報窓口までお願いいたします。

お問い合わせ先